

清川村下水道事業経営戦略【概要版】

1 策定の趣旨

本村における下水道事業は、平成9年度に一部供用開始して以来、宮ヶ瀬湖や小鮎川の水質保全と村民の生活環境の向上を支える重要な役割を担っております。下水道整備計画区域の整備率は、ほぼ100%となっていることから「新規投資」から「既存ストックの活用」の時代に入っており、今後、保有する施設の老朽化に伴う更新需要の増加が懸念されることから、将来にわたって限られた財源の中で、事業効果を最大限に発揮し、下水道施設を良好に維持・管理していくため、経営の基本計画として「経営戦略」を策定するものです。

2 計画期間

計画期間は、令和3年度から令和12年度までの10年間とします。

3 下水道事業の現状分析

本村の下水道事業については、事業運営に関する歳入予算において一般会計からの繰入金依存度が年々高くなっており、一般会計の運営に対し、大きな影響をおよぼしている状況となっております。

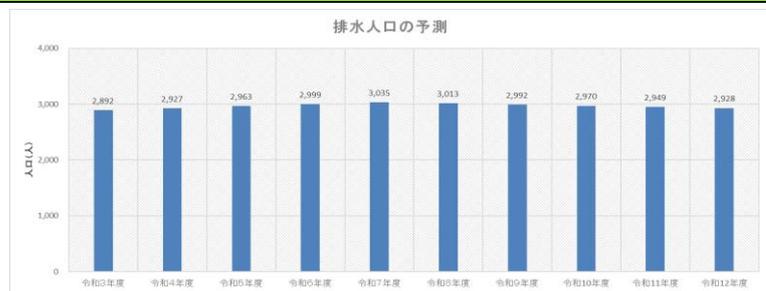
水源環境保全は水源地の役割として、継続して運営する必要性がある一方、下水道使用者は全村民ではないことから、使用者負担の原則を尊重し、使用料として応分の負担をお願いする必要があります。また、今後は、ストックマネジメント計画における改築更新事業を進めるにあたり、更なる投資経費の増額が見込まれることから、計画的な投資経費の平準化や更なる料金改定も検討し、長期的な経営の安定化を行う必要があります。

4 将来の事業環境

① 排水人口の予測

排水人口は、清川村人口ビジョンを基に予測しました。

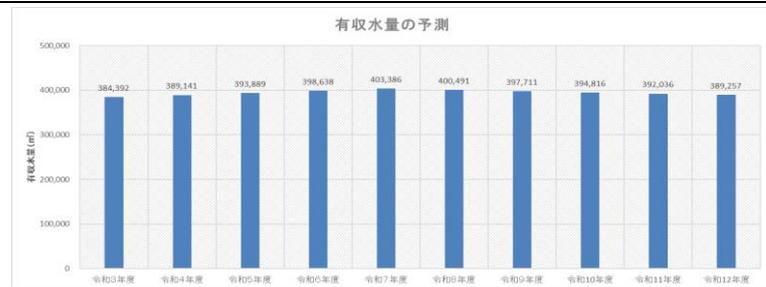
令和3年度から令和12年度で36人(約2%)の増加を見込んでいます。



② 有収水量の予測

有収水量は、排水人口×有収水量原単価(令和元年度)としました。

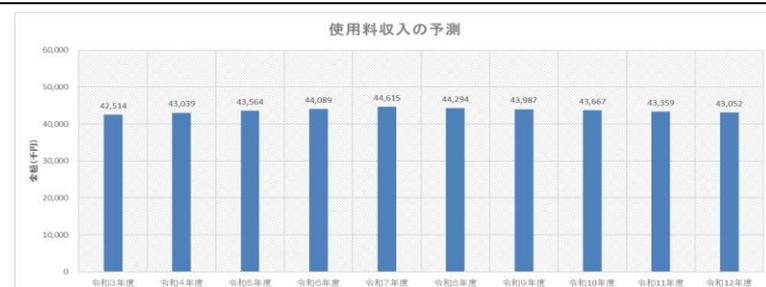
令和3年度から令和12年度で約5千m³の増加を見込んでいます。



③ 料金収入の見通し

料金収入は、有収水量予測×有収水量当たり料金収入(令和元年度)としました。

令和3年度から令和12年度で約50万円の増収を見込んでいます。



5 経営の基本方針

① 下水道の整備促進

下水道整備については、現時点では概成しているものの、住宅建設や企業の誘致・誘導に沿った土地利用計画のもと、産業振興・環境保全の調和のため、適正な下水道事業の整備を進めます。

② 水洗化の促進

普及促進については、村広報誌やホームページ、水洗化促進の文書を個別送付するなど水洗化率向上に向けた対応を行っているが、更なる効果的な普及促進活動を行うことを目的として、戸別訪問を実施するなどの対策を進めます。

③ 下水道施設の老朽化対策

下水道管の対応年数は、約50年であり、本村で最も古い管渠は約30年となっていることから管渠については、早急な延命化対策については当面行わない方針である。しかし、下水道処理施設については、供用開始から約25年が経過し、延命化や維持管理に要する費用の平準化を図ることを目的として、下水道ストックマネジメント計画を策定し、国の財源支援制度のもと、継続的な下水道施設の老朽化対策を進めます。

④ 下水道財政の健全化

下水道事業の債権管理の強化と合わせて、よりきめ細やかな経営分析による経営基盤強化を図るため、地方公営企業法を適用し、公営企業会計への移行を進めます。

6 投資・財政計画

① 投資目標

清川村特定環境保全公共下水道事業ストックマネジメント計画に基づき、計画的に施設の老朽化対策及び延命化対策を実施します。

令和3年度から令和12年度で、約28億4千万円の財政投資を見込んでいます。



③ 財源目標

ストックマネジメント計画に基づく建設改良費及び起債償還額の増額に伴い、今後、財源不足がより顕著となることから、一般会計繰入金の額が増額傾向を示し、経営に対する一般会計への依存度は増加し、一般会計の財政状況への懸念が増加することが想定されます。このため、使用料改定を段階的に行い、一般会計からの繰入金を減少させ財源バランスの適正化を図ります。





このような状況を踏まえ、今後の施設更新等の財源を確保し、安定的な事業運営を行うため、これまで県内の他市町と比較して非常に安価であった使用料について、令和5年度より3か年で段階的に約40%の値上げを行い、事業運営の安定化を図る方針とします。



7 経営戦略の事後検証など

令和3年度から令和7年度までを前期、令和8年度から令和12年度までを後期とし、各期の4年経過時に清川村公共下水道事業運営協議会において評価及び計画の見直しを行うものとします。

R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
清川村下水道事業経営戦略									
前期（5年間）					後期（5年間）				
			評価	見直し					評価

